

# 日本の中山間地域における地域資源を利用した特産品の提案

## ～滋賀県長浜市余呉町を事例に～

秀熊ともよ

キーワード：過疎・高齢化、地域資源、中山間地域、特産品、余呉町

### 1. 背景と目的

中山間地域では、かつて地域資源は食住の材料のみならず、林業、木炭生産、養蚕等の現金収入を人々に提供していた。しかし、それらの営みが衰退し、過疎・高齢化が進行している。中山間地域では、「地域内では生計が成り立たないという問題」と、「地域で暮らし続ける誇りの喪失」という二つの問題が起こっている(小田切 2009)。過疎・高齢化の対策として、地域資源を利用した特産品の開発によって地域振興が図られている。地域資源は、地域の人々の生活に密接に関わり、地域の人々の誇りに繋がっている可能性が高い。したがって、地域資源を利用して特産品を販売することは生計を向上させるだけでなく、誇りの再建につながると考えられる。地域資源は、地域で生産された素材の「ハード資源」と地域で培われた知識・技術などの「ソフト資源」の二つに分けられ、それらふたつを組み合わせることで商品に付加価値を付けることが出来る(多田 2013)。本研究では、ふたつの性質を持つ地域資源を活用するという概念を具体的な事例へ適用させ、地域資源を利用した特産品の提案を行うことを目的とする。そのために、まず地域の状況を把握し、潜在的な地域資源を探索し、また販売の可能性を検討する。

### 2. 調査地域と調査方法

調査地域は滋賀県長浜市余呉町である。余呉町では、摺墨集落内の摺墨山菜生産加工組合にて、地域資源を利用した商品の加工、販売が行われている。摺墨集落住民への聞き取り調査(2013. 9-11)、山菜採りの同行調査(2014. 4)、余呉住民への聞き取り調査(2014. 10-11)、市内3ヶ所の直売所にてアンケート調査を行った(2014. 5)。

### 3. 結果と考察

摺墨集落における聞き取りから、集落ではかつて養蚕や炭焼きによって現金収入を得て、山菜の採取、カヤなどの屋根材、薪炭などの燃料、水田への肥料などを周辺の山から採取し生活を営んでいた事が明らかになった。しかし、燃料革命と高度経済成長によりそれらの生業が都市部での賃労働へ変化し、木材価格の低下により植林されたスギ・ヒノキは手入れがされず放置されていた。山野資源の多くは利用されなくなったが、山菜の採取は規模を縮小しながらも、続けられていた。余呉町で利用されている山菜の種類は東日本で利用されているものと同じ傾向である事が分かった。さらに、余呉町は豪雪地帯であることから、保存食作りの文化を有しており、山菜もまた、保存技術によって冬期の貴重な食料となっていた。市内の直売所での調査では、地元で生産されたものの、特に野菜、山菜、お惣菜等を期待する人が多いという特徴が明らかになった。余呉町には、近畿地方には特異な種類の「山菜」というハード資源と、日本有数の豪雪地帯であるがゆえに培われてきた「食糧の保存技術」というソフト資源を持っている。これらの資源を活用すると、山菜が採取できる時期だけでなく冬期でも山菜を直売所に出荷できるだろう。伝統的な技術を取り入れることによって類似の商品と差別化でき、高付加価値化が期待できる。

小田切徳美 2009 「農山村再生～限界集落を超えて～」岩波書店：3-17

多田憲一郎 2013 「地域再生のフロンティア-中国山地から始まるこの国の新しいかたち-」小田切徳美 藤山浩編, 農山漁村文化協会：255-256